

# 天降石

## 天降石 [40K放射性エネルギーと高遠赤外線エネルギー放射体]

天降石は、世界最大級の巨大カルデラを誕生させた地球エネルギーが1万年の時をかけてつくりあげたエネルギー鉱石で、“火の国”九州の大分県と宮崎県を分かつ1,000m級の峰々が連なる九州山地に鉱床を形成しています。

注目すべき点は、この地が世界最大といわれる阿蘇のカルデラをはるかにしのぐ世界最大級のカルデラの痕跡が今なお残る地であり、祖母山、傾山等中生代の活発な火山活動により誕生したカルデラ火山群のほぼ中核に位置しているといった事実です。

1500万年前のこの世界最大級のカルデラの誕生は、くしくも日本列島が大陸から離れて現在のような列島となった時期と一致しています。天降石はまさにこのダイナミックな地球エネルギーが繰り広げる神秘に満ちた地球創造ドラマの中で誕生しました。

自然界のすべての物体は、生長エネルギーともいうべき微弱な放射線を放出しており、その約9割はウラン系、トリウム系の放射線といわれています。

これに対して、天降石は、カリウム系の放射性同位体である[40K]が生体によいとされる放射線ホルミシスレベルのエネルギーを放射しており、その値は $8.1 \times 10^{-14}$ q/gと一般に知られている薬石と比較してかなり高い部類に属しているのが大きな特長です。また、エネルギー鉱石の特長のひとつとされるSiO<sub>2</sub>（珪酸）含有量が70%というのも特筆に値します。

さらに、もうひとつの大きな特長としては、高遠赤外線放射体である点があげられます。4.0~24μm波長域の遠赤外線放射率は平均で95%と極めて高い放射率を持っています。一般に、体温36℃の人体の波長は9.4μmに相当するが、天降石は、育成波長といわれる4~14μmの遠赤外線エネルギーを放出し、生体構成分子と共鳴・共振することにより大きなエネルギーを発生させている可能性が考えられます。

これらの特長に加え、さらに天降石がその生成過程において大きな変成を受けたことによって、岩石中に放射線エネルギーや遠赤外線エネルギー以外の、ある種のエネルギーが蓄積されている可能性が考えられます。

実際、実験的に、微弱な電磁波エネルギーを計測できるサトルエネルギー測定器により天降石を測定してみたところ、エネルギー反応を示しました。このことから、天降石からは、今日、世界的に注目を浴びつつある中、遠赤外線と関連するサトルエネルギーが放出されていると考えられ、そう想定することによってこの鉱石がもつ優れた作用や効果が旨く説明できます。いずれにしても、天降石は、希少なエネルギー鉱石のひとつといえます。

## ■天降石の6大機能

